

主の過越 The Passover Instituted(過越祭の制定)

神(主)がイスラエルの民をエジプトの奴隷状態から救い出す際に行われた、最後で最大の災いと、それによる救いの出来事。

1. エジプトへの十の災い

神は、ファラオの頑なな心を打ち砕くために、「十の災い」※₁をもってエジプトを打たれました。その十の災いの最後の災いが、「すべての初子を打つ災い」でした(出エジプト記 11～12 章)。

2. 過越しの命令(出エジプト記 12 章)

この災いに備えて、神はイスラエルの民に対して次のような具体的な命令を与えました。

☛神の命令

- ・傷のない一歳の小羊(雄羊)を家族ごとに用意(出 12 : 3、4)し、屠る(出 12 : 6)。
- ・その血を家の入口の二本の柱と鴨居に塗る(出 12 : 7、詩編 51 : 9)。
- ・その夜、羊の肉は火で焼き、酵母を入れないパンを苦菜と共に食べる(出 12 : 8)。
- ・服を着て、腰に帯を締め、靴を履き、杖を手に持ち、急いで食べる(出 12 : 11)。

☛神の働き

その夜、神はエジプト中を巡り、エジプト人の初子をすべて打たれる。しかし、血が塗られた家には入らず、災いを「過ぎ越す」(=Pass over)と約束されました(出 12:12、13)。



3. 過越し(ペサハ)の意味とその由来

- ・「過越し」は、ヘブライ語で「ペサハ」(פסח, Pesach)と言い、「通り過ぎる・免れる」という意味。
- ・神が災いをもってエジプトを打つとき、イスラエルの家々を通り過ぎて、滅びから守ったことを記念して、「主の過越し」と呼ばれます(出 12:27)。

4. 過越しの祭りの制定(出エジプト記 12 章、レビ記 23 章)

神はこの出来事を世々にわたって守るべき祭りとして制定しました(出 12:14)。

- ・第一の月(アビブ/ニサンの月)の十四日の夕方に過越しの祭りを祝う(出 12:18)。
- ・家から酵母を取り除く(出 12:15、19)。→酵母は罪の象徴(Ⅰコリ 5 : 6～8)
- ・七日間(14 日夕方からその月の 21 日の夕方)、酵母を入れないパン※₂を食べる(出 12:15、18)。
- ・初日と七日目は、聖なる集会の日とされ、食事の用意以外、労働をしてはならない(出 12:16)。

5. 新約聖書との関係(イエス・キリストの象徴)

新約聖書では、「主の過越し」は、イエス・キリストの犠牲の型(予表)とされています。

- ・イエスは「世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)。
- ・彼の血によって、私たちは悔い改めにより、罪が赦される(→最終的には「罪の除去」がされる)。
- ・イエスは過越しの祭りの時に十字架にかかり、その死によって新しい救い(赦し)を完成した。
→コリントの信徒への手紙一 5 : 7 いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。

※1 : 十の災い

	内 容	聖 句	概 要
1	血の災い	出 7:14～24	ナイル川の水が血となり、生き物が死ぬ
2	蛙の災い	出 8:1～15	蛙の大群が土地を覆い、家の中にまで入り込む
3	ぶよの災い	出 8:12～15	地の塵がぶよになり家畜を襲う
4	あぶの災い	出 8:16～9:27	あぶの大群が人家や畑地を襲う
5	疾病の災い	出 9:1～7	恐ろしい疾病が家畜等を襲う
6	はれ物の災い	出 9:8～12	人と家畜にはれ物ができ、苦しみをもたらす
7	雹の災い	出 9:13～35	雹が人家や家畜等を襲う
8	いなごの災い	出 10:1～20	穀物を食い尽くす壊滅的な打撃をもたらす
9	暗闇の災い	出 10:21～29	地を暗闇が覆い、人々は3日間身動きが取れない
10	最後の災い(初子の死)	出 11:1～12:36	最も重大な裁き、過越しの起源(イスラエルの民は「過越祭」によって守られた)

※2 : 酵母を入れないパン(種入れぬパン) あらゆる誘惑に打ち勝ち、私たちのために命をささげられた罪なきメシアであるイエス・キリストの象徴です(ヨハネ 1 : 29、Ⅰコリ 5 : 7、ヘブライ 4 : 15)。